

『第8回伊賀市非核平和推進中学生広島派遣事業』



伊賀市では、8月5日から2日間、市内中学生の代表10人を広島市に派遣しました。参加した生徒は、市内の中学生一人ひとりが心をこめて折った千羽鶴を原爆の子の像に捧げ、平和記念式典への参加や平和記念資料館の見学を通じて、世界平和への思いを新たにしました。

福島第一原子力発電所事故により、「核」に対する関心が集まる中、あらためて核兵器のない平和な社会の実現に向けて、私たち一人ひとりに何ができるかを考えるよい機会となりました。

参加した生徒のレポートからヒロシマの様子をお伝えします。

広島派遣：平成24年8月5日(日)、6日(月)

■行程

- 5日 ～ 被爆体験講話聴き取り
原爆の子の像へ千羽鶴捧げ
平和記念公園見学
広島平和記念資料館見学
- 6日 ～ 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式(平和記念式典)参加
平和演劇鑑賞

【被爆体験講話聴き取り】



新宅さんという方から被爆体験講話を聞かせていただきました。お話の中で原爆が落ちて立ったまま丸こげになっていた人がいたということを知り、原爆は一瞬ですべての物を奪ってしまったんだと改めて感じました。

崇広中学校 齊藤マキさん



新宅さんから、お話を聞きました。背負っていたおばあさんが「ありがとう」と言って、背中で亡くなった体験をされたそうです。原爆はこんなに言葉にならないくらいむなしい事をおこしてしまうと感じました。改めて原爆を使用してはいけないと思いました。

霊峰中学校 佐古達哉さん

【原爆ドーム】



原爆ドームを見て、最初に違和感を感じました。それは、周りの景色は新しくなっているのにそこだけ原爆が投下されたまま、時間が止まっているかのようだったからです。それこそが原爆の恐ろしさを教えていると感じました。

緑ヶ丘中学校 泰羅真央さん

【原爆の子の像】



原爆の子の像の前に、千羽鶴がたくさんさげられていました。よく見ると多くの都道府県や学校の名前がついていました。

みんなそれだけ核兵器を持たない平和な世界を望んでいることがわかりました。

島ヶ原中学校 山元駿輔さん

【広島平和記念資料館】



広島平和記念資料館には、原爆投下時の写真や原爆の模型、被爆された方の所持品などが展示されていました。

当時の写真や、真っ黒こげになった弁当箱などを見て、改めて戦争は恐ろしいもので、絶対に起こしてはならないと思いました。

城東中学校 田中沙奈さん



平和記念資料館の展示物を見て、原子爆弾が一瞬で広島を焼き尽くし、多くの人々が亡くなったことに驚きました。今でも原爆の後遺症で苦しんでいる人もたくさんいるので、二度と戦争を起こさないように発信していきたいです。

阿山中学校 稲葉純平さん

【平和記念式典】



原爆犠牲者の方々の冥福を祈る気持ちが一带に広がっていました。多くの人々が平和を願っていることや、今も苦しみ続けている人々がいることを知り、私たちが平和を守っていかなければならないことを痛感しました。

上野南中学校 中川真衣さん



広島祈念式典では、世界中から多くの人々が参加していて、みんなが平和を望んでいるのだとわかりました。

世界では、まだ核兵器を持っている国があります。二度と戦争がおこらないように自分のできることに取り組んでいきたいです。

大山田中学校 西尾司さん

【広島市立舟入高等学校演劇】



私は、「はだしのゲン」を何度も読んだことがあります。「はだしのゲン」は、この劇の主人公である中沢さんの家族や原爆に対するたくさんの思いで作られました。

私も大勢の人に原爆の事や平和の大切さを伝えたいです。

柘植中学校 吉岡倫也さん



「麦っこゲン」は、マンガ「はだしのゲン」の作者、中沢啓治さんの半生を描いたものでした。そこには、「生きる、麦のように踏まれても、真っ直ぐのびろ。」という願いがこめられていました。自分も強く生きていきたいです。

青山中学校 川真田竜将さん

